

第19回 錦帯橋さくら守 活動実績

平成26年10月29日

1 活動日及び参加者名

10月20日(月) 09:30~13:00

正本(良) 正本(愛) 児玉(廣) 杉山 進藤 大原 小川 富田 児玉(加)
島崎 以上合計 10名

10月25日(土) 12:00~15:00 宮島紅葉谷周辺

第16代 佐野藤右衛門氏 講演及び紅葉谷での散策、説明会 参加者9名

2 実施作業

(1) 今月の活動予定、作業実施上の留意事項等の説明

(2) 作業内容

地区名	樹木番号	
	枯枝・病気枝の剪定	備考
吉香神社周辺	吉香神社の周辺 合計約20本	少人数ながら枯枝・病気の枝の剪定作業であった。
宮島 講演会	講題： 狂いかけた地球環境	昼食会の後 講演 聴講者と紅葉谷公園内を散策しながら植栽について解説していただいた。



今月の参加メンバー



切り口への薬剤塗布



演題

第16代目 佐野 藤右衛門氏 講演会を終わって紅葉谷で解説

3 今月の気になる木

吉香神社周辺のさくらの手入れを実施した。樹木を特定し病気の枝元から伐採したり、樹形を整えるための剪定を含め一本の木に相当な時間をかけた。老木の多いこのあたりでは入念な手入れが必要であろう。

植栽間隔もまた重要な課題である。並木のような植栽ではすぐに目につくが本日の実施エリアは平坦な場所で約10m四方に5~6本の木が植えてある。まだ樹高3m程度であるから目立たないがやがて成長し大きくなってくると互いに干渉し日照も足りなくなってくることが考えられる。樹木は成長すればするほど植え替えが困難となるので今のうちに植え替えをしておくことが望ましい。

4 特異事項

台風の影響により作業を一週間延期した。また作業当日は午後の作業にかかろうとした時に雨が降り始めたため安全及び会員の健康を考慮し打ち切った。

第16代目 佐野 藤右衛門さんは京都で造園業を営まれている。特に3代前からは仁和寺や御所の「さくら」をはじめ日本各地の名桜の保存につとめる「桜守」として活躍されている。そのユーモアセンスあふれる話し方は聞く人を引き付ける魅力をもっておられる。人間の行いが植物にとってどうなるのか大いに考えさせられる問題だと認識を改たにした次第である。

また、講演会後の周辺散策では植栽のあり方 樹木の病気について大いに参考になった。特に「天狗巣病」については伝染すると知識では知っていたが処分するためのノコギリは一回使用すごとに、たとえ作業を継続中であっても消毒しなければ別の枝に使用した際に伝染するそうである。そこまで徹底してやらなければならないことを初めて聞き参会者一同が驚いた次第である。

5 来月の予定

夏の間成長したツタ蔓類がさくらの幹を締め付けている。特に錦帯橋河畔下流域は下草や竹が茂りさらに蔦類が巻きついているのでカズラの除去を始め病気・枯枝の剪定の予定とする。

(1) 場 所 ロープウェイ駐車場 錦帯橋河畔下流

(2) 日 時 11月10日(月) 09:30~15:00